

東夷伝（4）高句麗

I はじめに

夫餘から高句麗へ

II 高句麗伝を読む

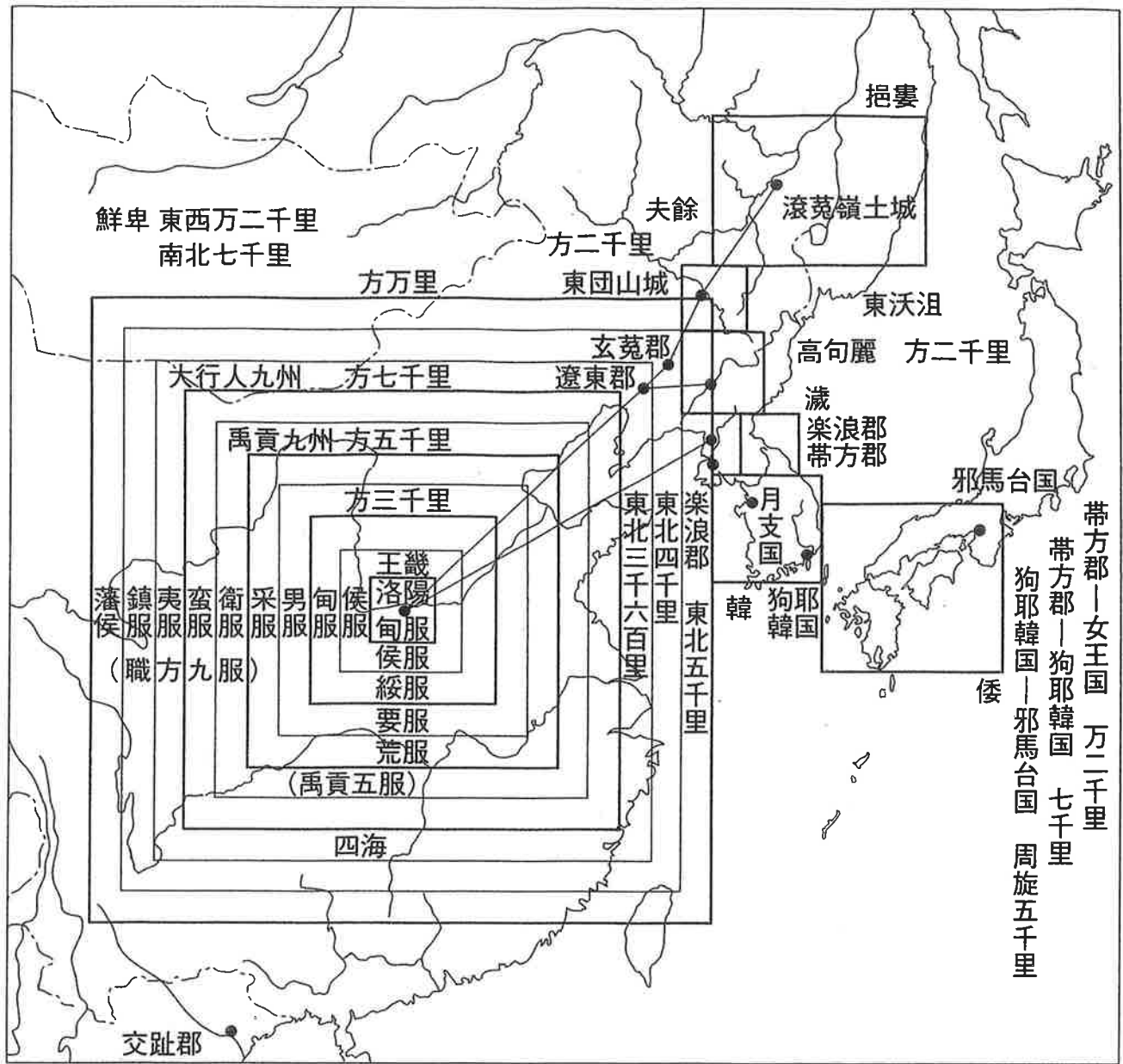
III 高句麗伝の考古学的アプローチ

IV おわりに

今後の課題



正始三年。高句麗反
督七牙門討句驪。五
復遺寇。六年五月旋
討寇將軍魏烏丸单于□
威寇將軍都亭傍□
行裨將軍領玄
□裨將軍□



帶方郡—女王國 万二千里
 帶方郡—狗耶韓國 七千里
 狗耶韓國—邪馬台國 周旋五千里

東潮, 2012

『邪馬台國の考古学—魏志東夷伝が語る世界—』角川書店

魏志東夷伝の里程と天下図



魏の東方経略ルート (田中作成)

田中俊明、二〇一四「三世紀東北アジアの国際関係」
 朝鮮学報 第230号
 朝鮮学会

宮という名で、生まれるとすぐ、目を開けてあたりを見まわすことができた。国人たちはそうした異常な子供を嫌ったのであるが、成長すると、はたして暴虐を行ない、しばしば侵略を行なって、国はひどくうち破られてしまった。現在の王も生まれ落ちるとすぐ目を開いて周囲の人々を見まわすことができた。句麗では似ていることを「位」というが、その曾祖父の宮に似ていることから、位宮と名づけられたのである。位宮は力があって勇敢で、鞍を置いた馬を乗りこなし、狩猟射撃に巧みであった。景初二年（二三八）に、太尉であった司馬宣王（懿）が軍勢を率いて公孫淵を討ったとき、宮は主簿と大加とを遣わし数千人を率いて力ぞえをさせた。正始三年（二四二）、宮は西安平に侵入して略奪を働いたが、五年に、幽州刺史の毌丘儉に敗れた。そのことについては「毌丘儉伝」（魏書第二十八）に詳しい。

(18) 幘は、上部の平らな頭巾の一種。漢代以来、身分の上下を通じて盛んに用いられた。

(19) 弁は先のとがった冠の一種をいう。中国では、幘よりも由緒正しいものである。なお幘と弁については、林巳奈夫「漢代男子のかぶりもの」史林46・5を参照。

し、楽浪太守の妻子を奪い去った。靈帝の建寧二年（一六九）、玄菟太守の耿臨こうりんがこれを討伐し、斬首したり捕虜にした者が数百にのぼった。伯固は降服して、遼東郡の支配下に入った。熹平年間（一七二—一七八）には、伯固の願い出により、玄菟郡の支配下に入るようになった。公孫度が海東の地域に勢力を伸ばすと、伯固は大加の優居ゆうきよ、主簿の然人ぜんじんなどを遣り、公孫度に力ぞえをして、富山の賊を打ち破った。

伯固が死んで二人の息子が残された。長男を抜奇ばつきといい、弟を伊夷模いいもといった。抜奇がおろかであったため、国人たちは共議して伊夷模を王に立てた。「高句麗は」伯固の時代以来、しばしば遼東郡で略奪をはたらき、また逃亡してきた胡族の五百余家を受け入れていた。建安年間（一九六—二〇〇）、公孫康は軍を出して高句麗に攻撃を加え、その都を破って、邑落まちまちを焼いた。「一方」抜奇は兄でありながら王位につけなかったことを怨みに思っ、涓奴部けんとの加たちとともにそれぞれに下戸三万余人を率いて公孫康のもとにおもむいて降服し、もどると沸流水ふつりゅうのそばに住居を定めた。投降していた胡族のものも伊夷模に叛そむいたので、伊夷模は別に新しい都を建てた。現在の都がそれである。抜奇は「句麗には帰らず」そのまま遼東郡におもむき、その息子を句麗国に留まらせた。現在の古雛加こすうかの駁位居はくいきよがこの息子である。そののち、高句麗がふたたび玄菟郡に攻撃をかけてきたので、玄菟郡は遼東郡と連合して討伐を加え、てひどく撃ち破った。

伊夷模には嫡子がなく、灌奴部の女と通じて生まれた子供に位宮いみやうと呼ばれるものがいた。伊夷模が死ぬと、位宮が立って王となった。現在の句麗王の宮がこれである。その曾祖父が

攻撃をかけたところ、かえって殺されてしまった。州や郡や県の役所がそろってその罪を句麗侯の駒（駒）にかぶせようとしたとき、嚴尤が上奏していった、「貂の人々が法に背きましたが、その罪は駒の発意によるものではありません。ここはひとまずは安撫されますように。いまみだりに大罪として処分を加えられれば、反乱をおこさせてしまうことにもなりましよう。」王莽はこの意見を容れず、詔を下して嚴尤に攻撃を命じた。嚴尤は誘いをかけ句麗侯の駒に会見を申し入れて、出てきたところを斬り殺すと、その首級を馭伝によって長安まで送った。王莽は大いによりこんで、天下に布告し、高句麗の名を改めて下句麗と呼ぶように命じた。この当時、高句麗は侯国であったが、後漢の光武帝の八年（三三二）、高句麗王が使者を遣って朝貢してきたとき、はじめて王と称されるようになった。

殤帝・安帝のころになると、句麗王の宮がしばしば遼東郡に侵攻した。「永初九年、高句麗は」あらためて玄菟郡の監督下に入ることになった。遼東太守の蔡風と玄菟太守の姚光とは、宮が両方の郡に損害をあたえていることから、「協同して」兵をおこし、これを討伐した。宮は、いつわって降服し、講和を申し入れた。二つの郡は征伐の軍を止めた。「一方」宮はひそかに軍を遣って玄菟郡を攻めさせ、候城県に火をかけ、遼隧県に侵入して、役人や民衆を殺害した。そののち、宮はふたたび遼東郡を侵犯した。蔡風は軽装備で軍吏や兵士をひきつれて追撃をかけたが、戦いに敗れて死んだ。

宮が死ぬと、息子の伯固が立った。順帝・桓帝の時代に、ふたたび遼東郡を侵犯し、新安と居郷（民郷）で略奪をはたらき、さらに西安平に攻撃をかけて、その道すがら帯方令を殺

集まり、隧神すいしんを迎え降ろし、都の東郊の水のほとりにお遷うつしして祭祀を行ない、そのとき木製の隧すい（穴の模型か、あるいは木製の穀神の人形か）を神座にすえる。牢獄はなく、罪人が出たときには加の官の者たちが評議をしたあと、すぐさま死刑を執行し、その妻子を没収して奴婢とする。彼らの風習では、婚姻をなす場合、約束ができると、女の家では母屋のうしろに婿屋と呼ばれる小屋を建てる。婿になる男性が夕方に女の家に来てくると、戸外で名を名のり跪拝をして、女のもとで夜を過ごしたいと請う。そうしたことが二、三度くりかえされてから、娘の父母が許して、小屋の中に泊まらせる。同棲すると同時に金銭や帛きぬの貯蓄をし、生まれた子供が大きくなってから、妻をつれて男の家に帰る。その風俗は淫乱である。男女は結婚をするとすぐ、少しずつ葬礼のための衣服をそろえてゆく。埋葬の礼は盛大で、金銀財貨は葬礼のために用い尽くされる。石を積んで墳丘を作り、松や柏かしわをならべて植える。この国の馬はみな小がらで、山を登るのになれている。民衆たちは意気盛んで、戦闘になれており、沃沮よくそや東濊とうわいはみなその支配下にある。別に小水貊しょうすいばくとよばれる人々がいる。句麗は国を建てる時、大河のそばにその都を定めるのであるが、西安平せいあんべいの北に、南に流れて海に注ぐあまり大きくない河があつて、句麗の別種がこの小さな川のそばに国を建てた。そうした所から彼らは小水貊と呼ばれる。好い弓を産出する。貊弓ばくきゆうと呼ばれるのがそれである。王莽おうもうの時代のはじめ、高句麗の兵を動員して胡族こぞく（匈奴）を伐うたうとしたが、高句麗は征伐に出るのを好まず、強制的に出動させようとすると、みな逃亡して長城の外に脱出し、「今度は逆に中国に」侵入して略奪をはたらくようになった。遼西大尹たいいんの田譚でんたんが後を追つて

官制では、対盧があるときには沛者は置かれず、沛者があるときには対盧は置かれぬ。王の宗族や大加たいかの官にある者は、みな古雛加と呼ばれる。涓奴部がもともと国の支配者であったことから、いまは王を出さないが、彼らのうちの正統を継ぐ大人たいじんは、古雛加と称することができ、また宗廟おたまを立て、靈星や社稷の祭祀を行なうことができる。絶奴部も代々王家と通婚しているため、古雛加の呼号を与えられている。大加たちはそれぞれの配下に使者や阜衣そうい先人の官を置いており、「その官についている者たちの」名はすべて王のもとに通知される。それはちょうど「中国の」卿大夫けいたいふがそれぞれに持つ家臣のようなものであって、会同の場に同席するときには、王家の使者や阜衣先人と同列にならぶことができない。都に居住する豪族たちは田畑で働くことはせず、座食する者が一万人以上もいて、下戸たちが遠くから米などの食糧や魚塩をかついできて彼らに給している。民衆は歌舞を喜び、都や各地の邑落ゆうらくでは、夜になると男女が集まって、いっしょに歌ったりあそんだりする。大きな倉庫はなく、家ごとにそれぞれ小さな倉があって、桴京ふけいと呼ばれる。人々は心から清潔を好み、酒を醸かもすのに巧みである。跪拜きはい（ひざまずいてするお辞儀）をするときに片方の足を前に出すという点で、夫余とは異なっている。道を行く場合にはいつも走っている。十月に天を祭り、都に人が盛大に集まる。その集会は東盟とうめいと呼ばれる。公おおやけの集まりがあるとき、人々は錦ぬいとりや繡いとりの着物を着て金銀の装飾品で身を飾る。大加や主簿は頭に幘さくをつける。それは中国の幘さくに似ているが後頭部(19)があいている。その他の小加（小官）は折風せつふうをつける。形は中国の弁冠(19)に似ている。その国の東部に大きな穴があって、隧穴すいけつと呼ばれる。十月になると都に人々が大ぜい

高句麗は、遼東郡の東一千里の所にあつて、南は朝鮮・濊貊と、東は沃沮と、北は夫余と境を接している。丸都山のふもとに都を置き、その領域は二千里ばかり、戸数は三万。高山や峻谷が多く、平原や沢地はない。山や谷の地形を利用して住居をかまえ、谷川の水で生活をすする。良田はなく、田づくりにつとめはするが、口腹を満たすに足るだけの食料は収穫できない。その風俗として、食物を儉約して、宮殿や住居を盛んに建てる。居住地の左と右に大きな建物を建て、そこで鬼神におそなえものをし、また星祭りや社稷（土地神と穀神）の祭礼を行なう。人々の性格はあらあらしく気みじかで、好んで侵入略奪をはたらく。その国には王がおり、相加・対盧・沛者・古雛加・主簿・優台丞・使者・卓衣先人と呼ばれる官があつて、尊卑にそれぞれ等級がある。東夷たちの古くからのいい伝えでは、彼らは夫余の別種だとされ、言葉その他多くの点について夫余と同じであるが、その性格気質と衣服に違いがある。もともと五つの部族があつた。涓奴部（消奴部）・絶奴部・順奴部・灌奴部・桂婁部の五つである。はじめは涓奴部から王が出ていたが、だんだんと勢力を失い、現在では桂婁部がかわつて王を出している。漢の時代には楽隊や芸人が下賜されたことがあり、いつも玄菟郡にやってくる礼服や衣幘を授かり、高句麗令が彼らの名簿をあつかつていた。のちにはいささか傲慢になつて、もう郡の役所までは出向かず、東の境界に小さな城を築き、礼服や衣幘をその中に置いておいて、年ごとあるいは季節ごとにそこへ取りに来た。いまでも異民族の者たちはこの城を幘溝瀆と呼んでいる。溝瀆とは、句麗の言葉で城を意味する。その

郡害，興師伐之。宮詐降請和，二郡不進。宮密遣軍攻玄菟，焚燒候城，入遼隧，殺吏民。後宮復犯遼東，蔡風輕將吏士追討之，軍敗沒。

宮死，子伯固立。順、桓之間，復犯遼東，寇新安、居鄉，又攻西安平，于道上殺帶方令，略得樂浪太守妻子。靈帝建寧二年，玄菟太守耿臨討之，斬首虜數百級，伯固降，屬遼東。

(嘉)〔熹〕平中，伯固乞屬玄菟。公孫度之雄海東也，伯固遣大加優居、主簿然人等助度擊富山賊，破之。

伯固死，有二子，長子拔奇，小子伊夷模。拔奇不肖，國人便共立伊夷模爲王。自伯固時，數寇遼東，又受亡胡五百餘家。建安中，公孫康出軍擊之，破其國，焚燒邑落。拔奇怨爲兄而不得立，與涓奴加各將下戶三萬餘口詣康降，還住沸流水。降胡亦叛伊夷模，伊夷模更作新國，今日所在是也。拔奇遂往遼東，有子留句麗國，今古雛加駁位居是也。其後復擊玄菟，玄菟與遼東合擊，大破之。

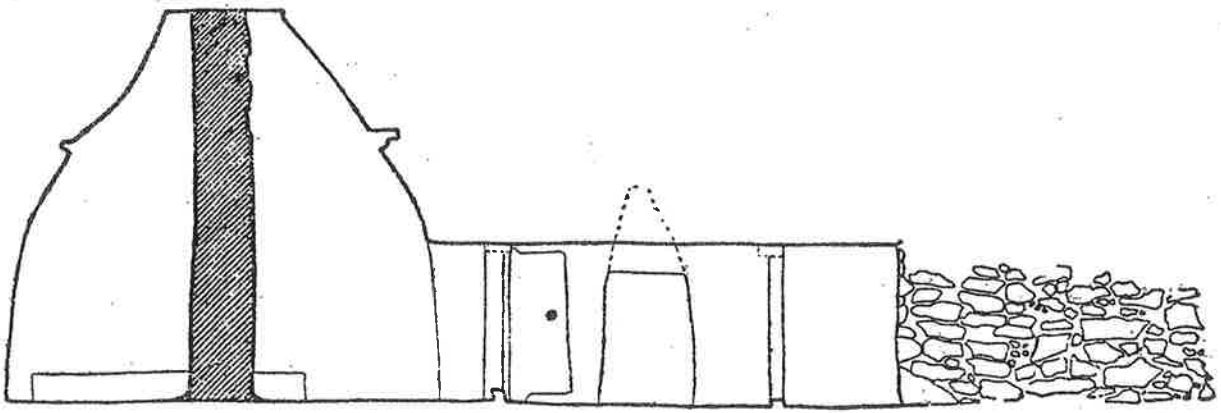
伊夷模無子，淫灌奴部，生子名位宮。伊夷模死，立以爲王，今句麗王宮是也。其曾祖名宮，生能開日視，其國人惡之，及長大，果凶虐，數寇鈔，國見殘破。今王生墮地，亦能開日視人，句麗呼相似爲位，似其祖，故名之爲位宮。位宮有力勇，便鞍馬，善獵射。景初二年，太尉司馬宣王率衆討公孫淵，宮遣主簿大加將數千人助軍。正始三年，宮寇西安平，其五年，爲幽州刺史毋丘儉所破。語在儉傳。

名之爲桴京。其人絜清白喜，善藏釀。跪拜申一腳，與夫餘異，行步皆走。以十月祭天，國中大會，名曰東盟。其公會，衣服皆錦繡金銀以自飾。大加主簿頭著幘，如幘而無餘，其小加著折風，形如弁。其國東有大穴，名隧穴，十月國中大會，迎隧神還于國東上祭之，置木隧于神坐。無牢獄，有罪諸加評議，便殺之，沒入妻子爲奴婢。其俗作婚姻，言語已定，女家作小屋於大屋後，名壻屋，壻暮至女家戶外，自名跪拜，乞得就女宿，如是者再三，女父母乃聽使就小屋中宿，傍頓錢帛，至生子已長大，乃將婦歸家。其俗淫。男女已嫁娶，便稍作送終之衣。厚葬，金銀財幣，盡於送死，積石爲封，列種松柏。其馬皆小，便登山。國人有氣力，習戰鬪，沃沮、東濊皆屬焉。又有小水貊。句麗作國，依大水而居，西安平縣北有小水，南流入海，句麗別種依小水作國，因名之爲小水貊，出好弓，所謂貊弓是也。

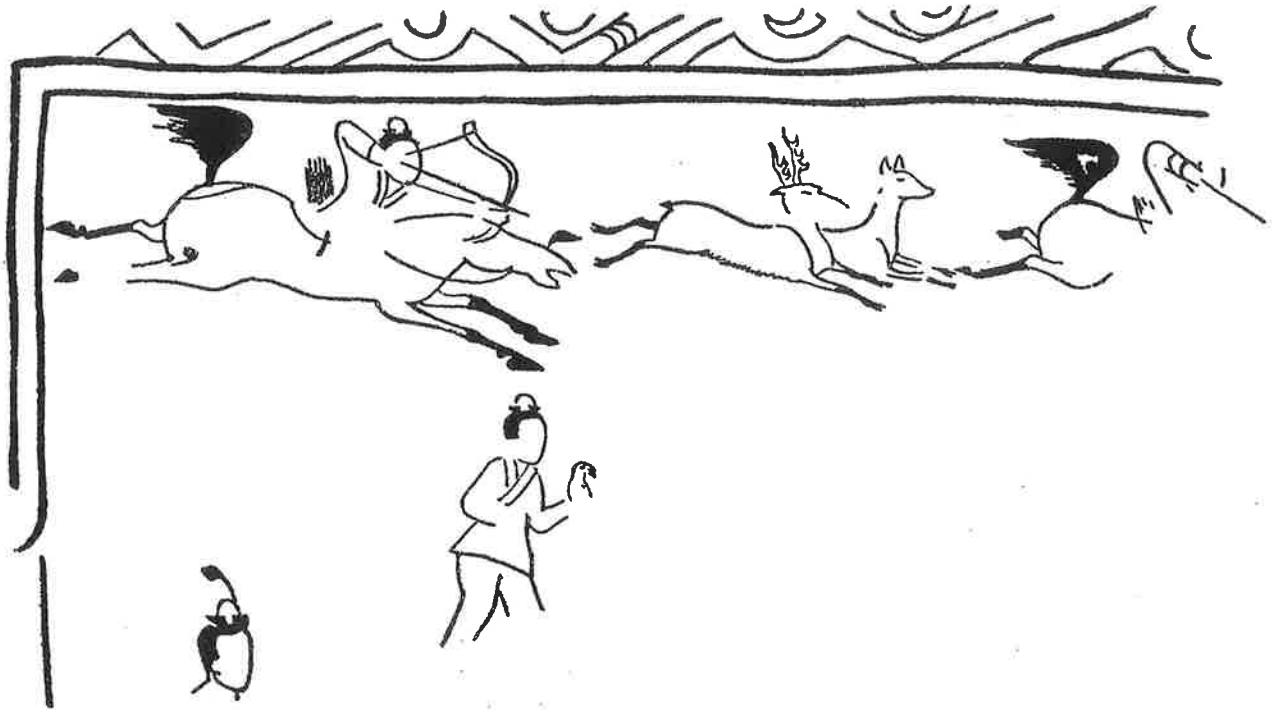
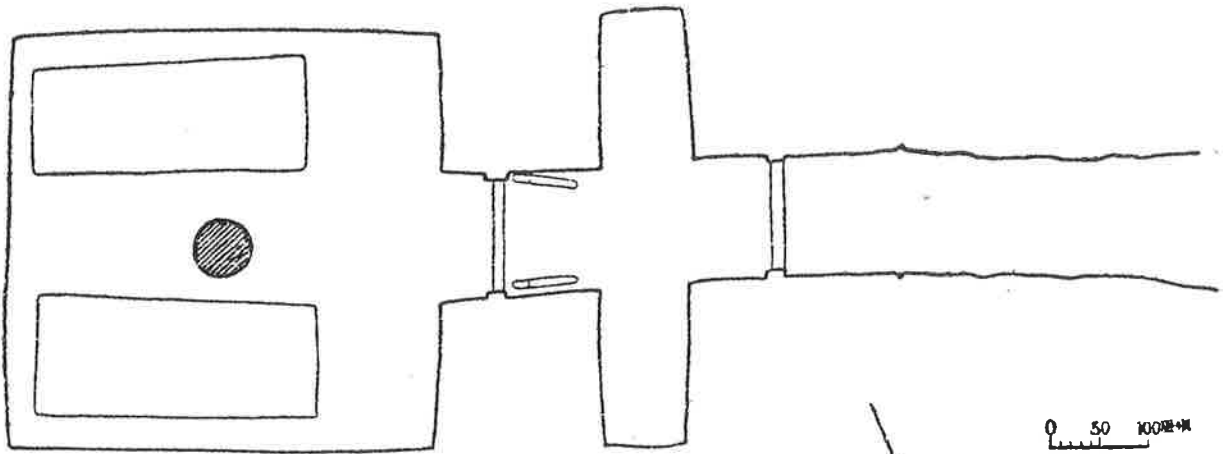
王莽初發高句麗兵以伐胡，不欲行，彊迫遣之，皆亡出塞爲寇盜。遼西大尹田譚追擊之，爲所殺。州郡縣歸咎于句麗侯駒，嚴尤奏言：「貊人犯法，罪不起于駒，且宜安慰，今猥被之大罪，恐其遂反。」莽不聽，詔尤擊之。尤誘期句麗侯駒至而斬之，傳送其首詣長安。莽大悅，布告天下，更名高句麗爲下句麗。當此時爲侯國，漢光武帝八年，高句麗王遣使朝貢，始見稱王。

至陽、安之間，句麗王宮數寇遼東，更屬玄菟。遼東太守蔡風、玄菟太守姚光以宮爲二

高句麗在遼東之東千里，南與朝鮮、濊貊，東與沃沮，北與夫餘接。都於丸都之下，方可二千里，戶二萬。多大山深谷，無原澤。隨山谷以爲居，食澗水。無良田，雖力佃作，不足以實口腹。其俗節食，好治宮室，於所居之左右立大屋，祭鬼神，又祀靈星、社稷。其人性凶急，喜寇鈔。其國有王，其官有相加、對盧、沛者、古雛加、主簿、優台丞、使者、阜衣先人，尊卑各有等級。東夷舊語以爲夫餘別種，言語諸事，多與夫餘同，其性氣衣服有異。本有五族，有涓奴部、絕奴部、順奴部、灌奴部、桂婁部。本涓奴部爲王，稍微弱，今桂婁部代之。漢時賜鼓吹技人，常從玄菟郡受朝服衣幘，高句麗令主其名籍。後稍驕恣，不復詣郡，于東界築小城，置朝服衣幘其中，歲時來取之，今胡猶名此城爲幘溝漚。溝漚者，句麗名城也。其置官，有對盧則不置沛者，有沛者則不置對盧。王之宗族，其大加皆稱古雛加。涓奴部本國主，今雖不爲王，適統大人，得稱古雛加，亦得立宗廟，祠靈星、社稷。絕奴部世與王婚，加古雛之號。諸大加亦自置使者、阜衣先人，名皆達於王，如卿大夫之家臣，會同坐起，不得與王家使者、阜衣先人同列。其國中大家不佃作，坐食者萬餘口，下戶遠擔米糧魚鹽供給之。其民喜歌舞，國中邑落，暮夜男女羣聚，相就歌戲。無大倉庫，家家自有小倉，

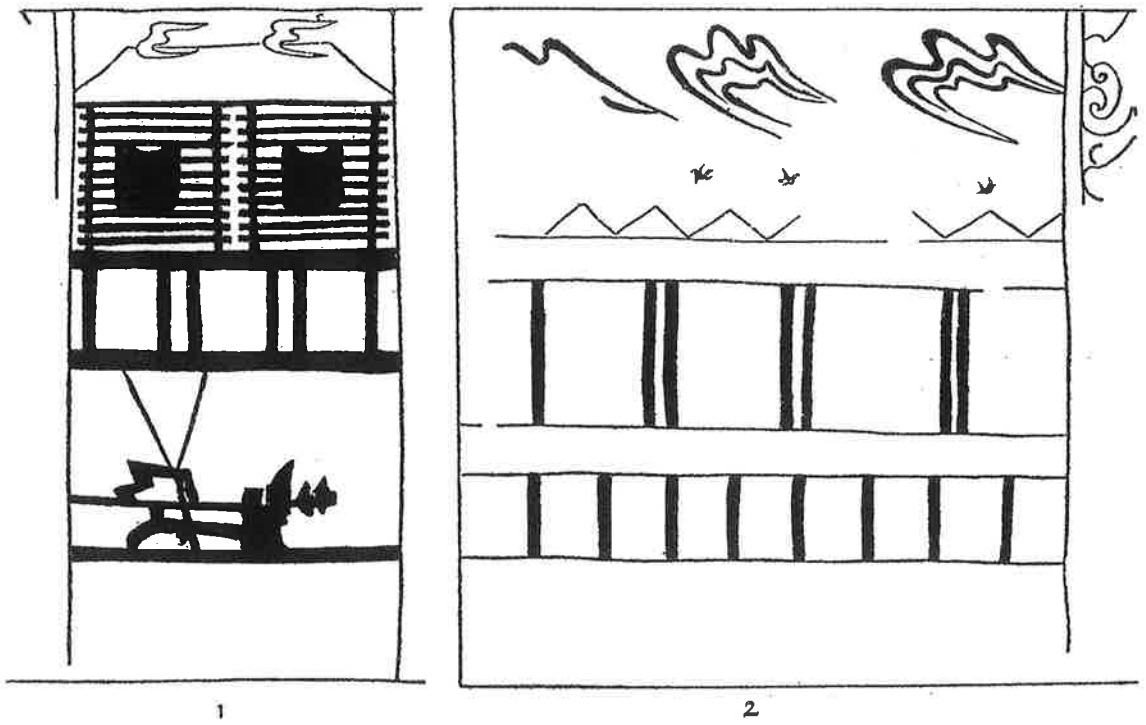


麻綫沟一号墓平面、仰視、剖面图



北側室东壁壁画摹本(2/15)

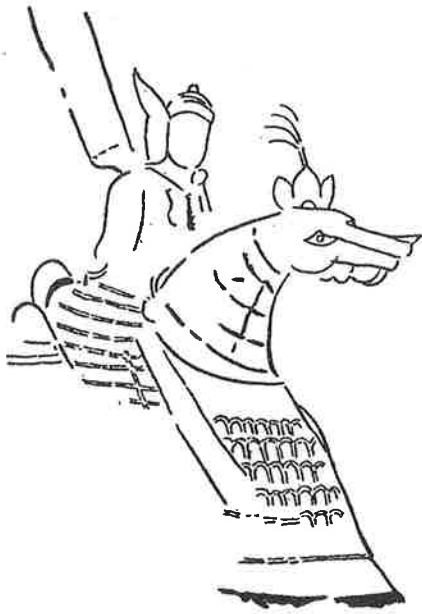
吉林省博物館輯安考古队「吉林輯安麻綫沟一号壁画墓」『考古』1964年第10期



1

2

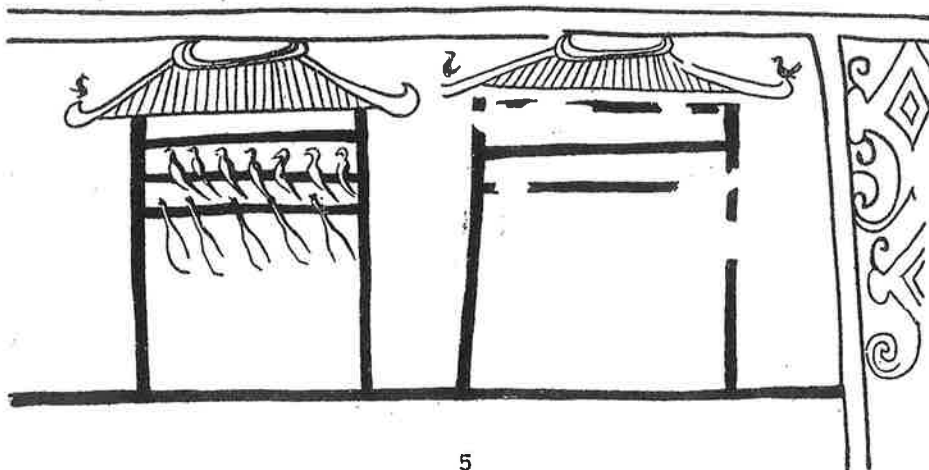
1. 南侧室南壁 2. 南侧室东壁



2



4



5



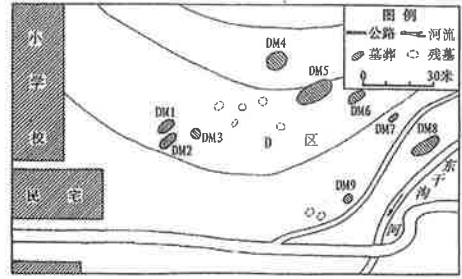
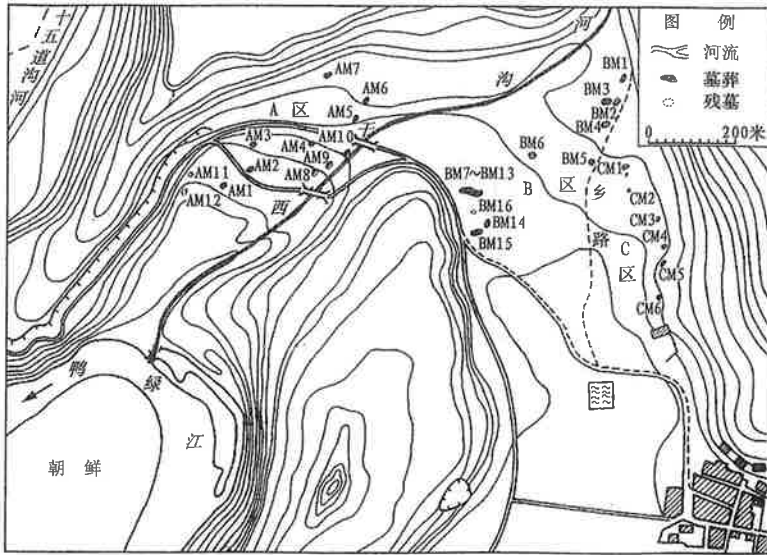
6

壁画墓本

2. 墓室北壁东端

4. 墓室南壁东端 5. 北侧室西壁上

6. 墓室东壁上



AM2 ZT2



AM2



BM4



BM2



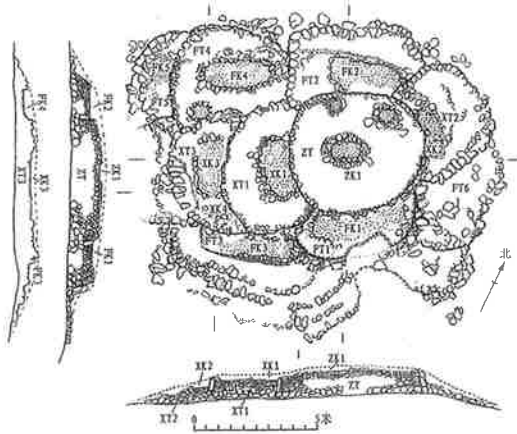
BM5



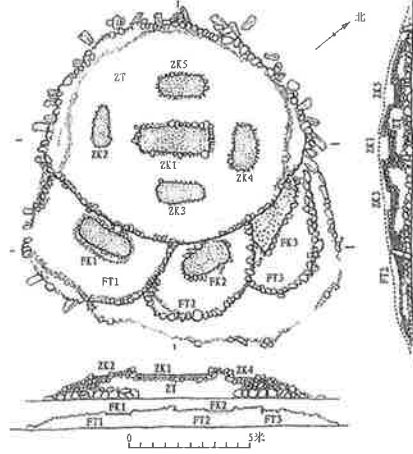
AM1

干湾子墓群 [吉林省文物考古研究所2003]

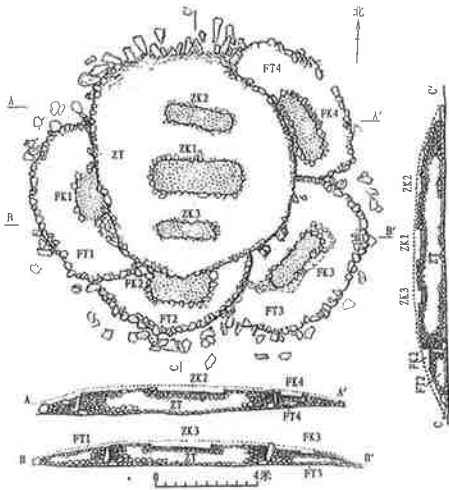
東 洋 朔, 2009 『三国志』東夷伝の文化環境 『国立歴史民俗博物館研究報告』第151集



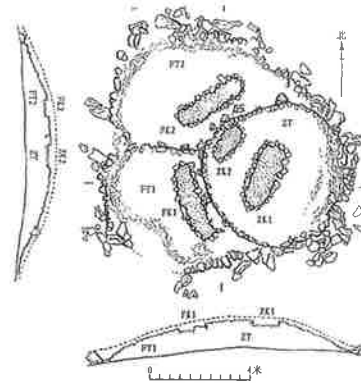
AM2



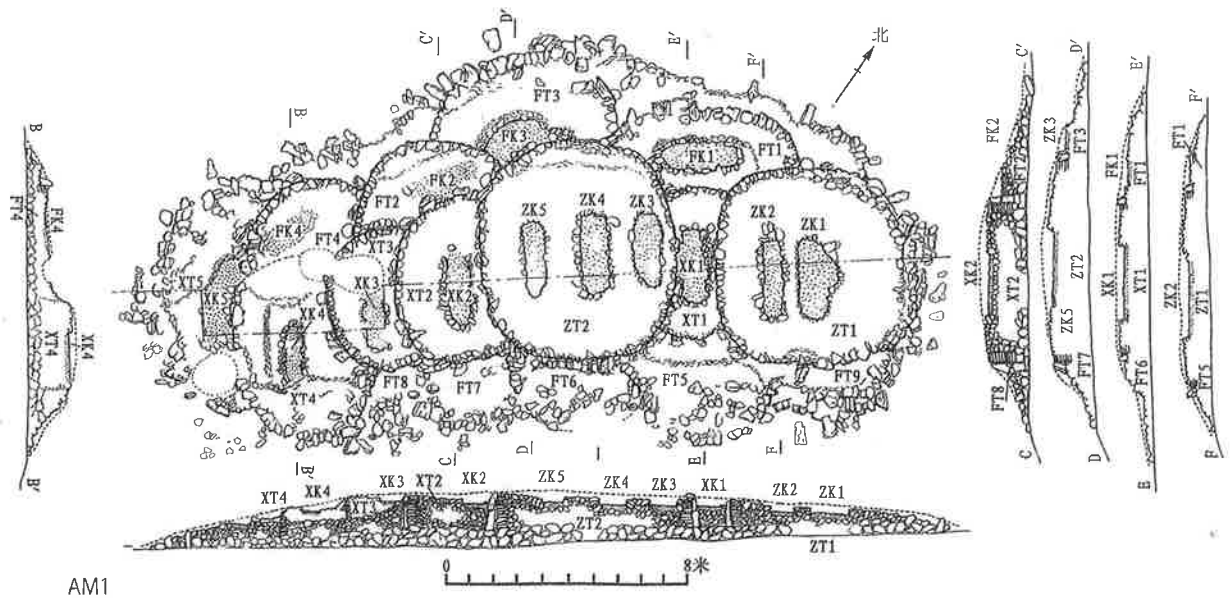
AM3



AM4



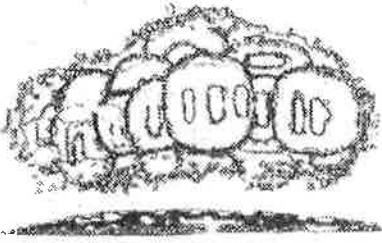
BM5



AM1

干溝子墓群 (AM1・AM2・AM3・AM4・BM5)

無基壇円丘石槨



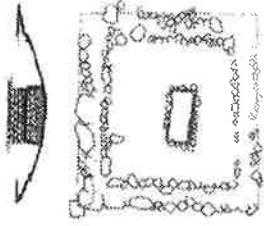
方壇石槨 干溝A-1号墓



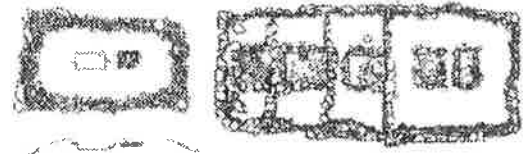
望江楼4号墳



下活龍8号墳



雲坪里4-3号墳

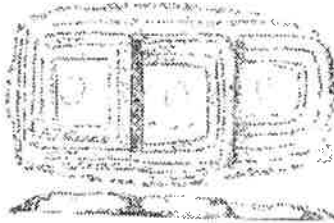


雲坪里4-8号墳

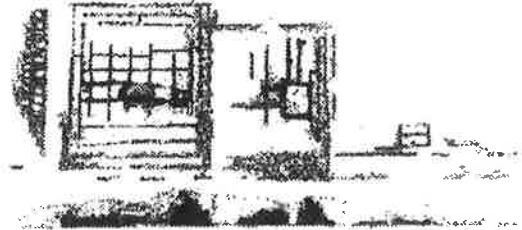
方壇階梯石槨



高麗墓子1~9号墓



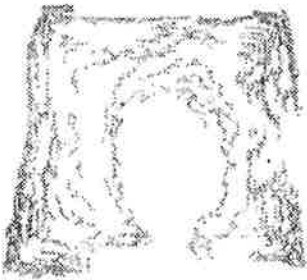
東大坡365号墳



万宝汀242号墳

禹山3232号墳

方壇階梯石室

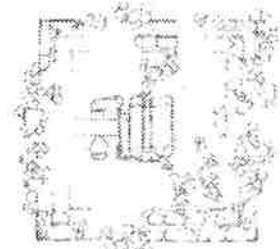


西大塚 (63×57m)

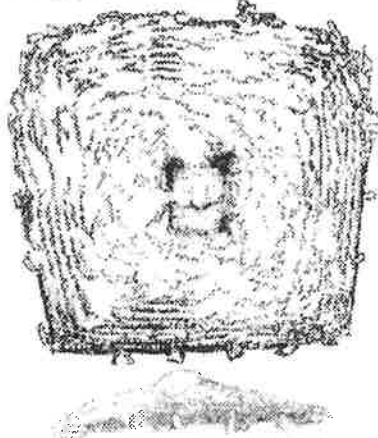
方壇階梯石室



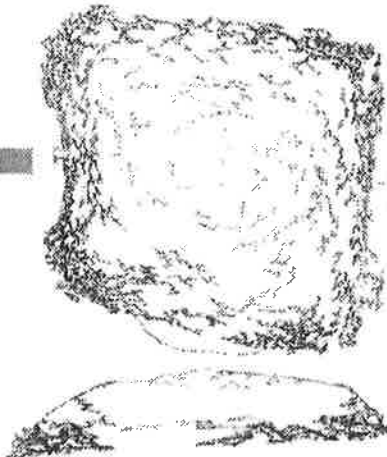
禹山3319号墳 (357年)



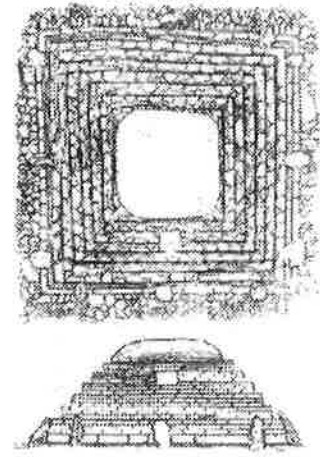
折天井塚



太王陵 68×66m
(小獸林王陵 384年)



千秋塚 71×67m
(故国壤王陵 391年)



將軍塚 33×33m
(広開土王陵 412年)

高句麗積石塚の変遷

東 潮, 2012 『邪馬台国の考古学 魏志東夷伝が語る世界』 角川選書



匈奴 モンゴル・ゴルモド



高句麗 長白干溝子



高句麗 桓仁望江楼



高句麗 集安雲峰



高句麗 桓仁上古城子



高句麗 集安良民



韓 漣川鶴谷里



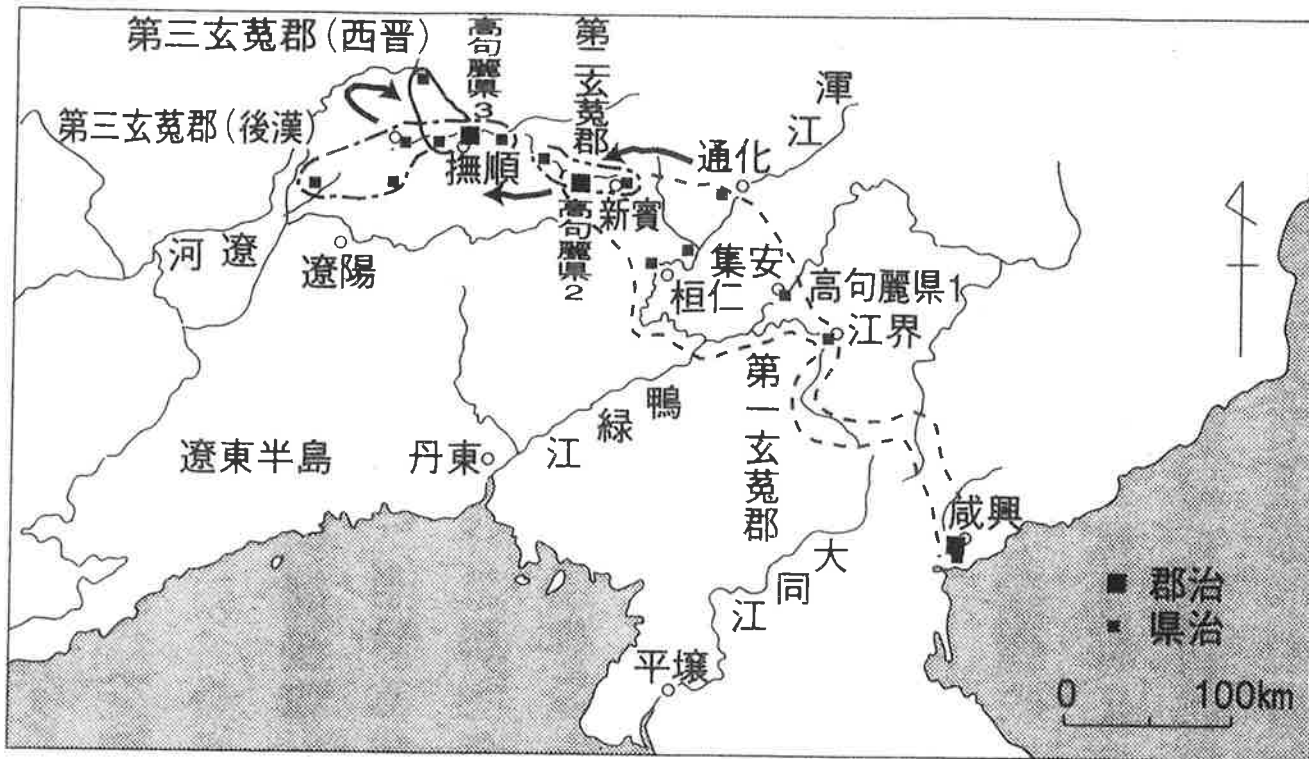
百濟 ソウル石村洞

● 積石塚
■ 木槨墳・埽室墳

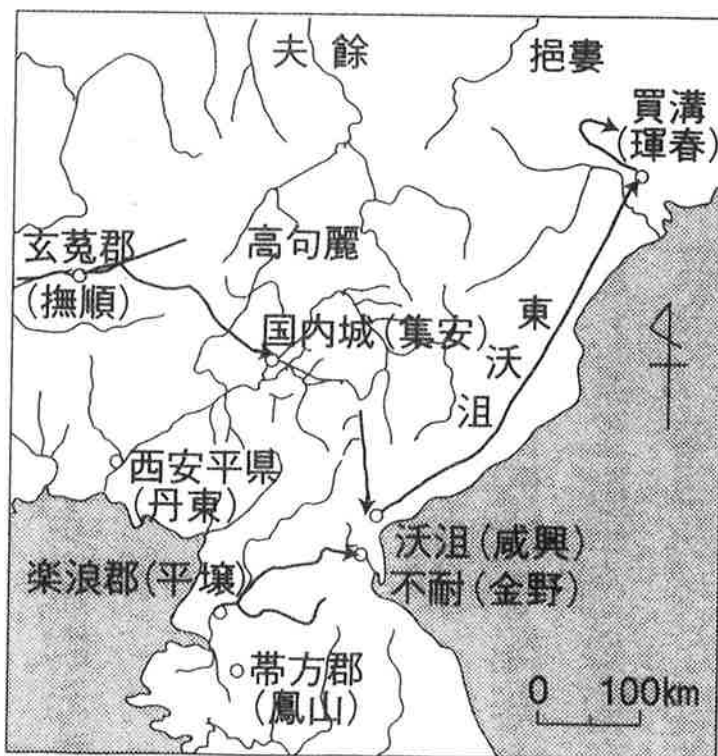


加耶 金海大成洞

高句麗積石塚の分布



田丘侯碑 (遼寧省博物館)



玄菟郡の変遷(上)と魏田丘侯の高句麗侵攻ルート
(東・田中2005)

東 潮, 2012 『邪馬台国の考古学 魏志東夷伝が語る世界』 角川選書



山城子發見毋丘儉斷碑拓影

(原石 瀋陽博物館藏)

梅原末治, 1966 『*朝鮮古文化綜鑑*』第4卷, 養德社